

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

西工の伝統と創立時の校憲に基づく「尊敬される職工の育成」に取り組み、大阪の産業界を担うものづくり人材を育成する大阪一の工科高等学校をめざす

- ものづくり教育により、実践力と社会の技術の進展に対応できる力を身に付けさせるための指導を行い、社会で活躍できる生徒を育成する
- 全ての教育活動において、チャレンジ精神と協働性を醸成する指導を行い、様々な課題を発見し、解決できる力を持つ生徒を育成する
- 実践的技能養成重点校として、資格、検定、コンテスト、競技会、企業等との連携など様々な活動に取り組み、意欲ある生徒を育成する

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力と学びに向かう力を育成する学校

- (1) 社会人として必要な力を身につけ、生涯にわたって学び続ける意欲と姿勢を涵養するため、基礎・基本の学力を定着させるとともに、専門分野の技術・技能の育成を行う。
- ア 授業内容・技術指導内容・評価の改善に取り組み、生徒の学びに向かう意欲と授業満足度を向上させる。
- イ 少人数展開の授業や ICT 機器の活用とともに、公開授業や研究授業を積極的に推進し、教員の協働により学校全体の授業力を向上させる。
- ウ 全ての教育活動において、生徒の協働性を育成するとともに、コミュニケーション力、課題発見・解決する力、プレゼンテーション力を育成する取組みを実施する。
- \*生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく行われている」を向上させ、令和5年度には肯定率85%以上を達成する。(H30:68%、R1:67%、R2:77%)
- \*生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率80%以上を維持する。(H30:68%、R1:67%、R2:80%)
- エ 各教科・系でキャリア教育を見据えた基礎学力の目標を設定して、基礎学力向上に向けた指導を行う(新)
- (2) 生徒に自信と意欲を持たせるために、実践的技能養成重点校として、製造現場で役立つ国家資格・各種検定試験等の取得・合格をめざすとともに、各種コンテスト等への応募や競技会等の出場、企業等との連携などの体験活動に積極的に取り組ませる。
- \*卒業までに3つ以上の検定・資格を受検させ、その取得・合格をめざす。ジュニアマイスター顕彰受賞者15人以上を維持する。(H30:17人、R1:15人、R2:22人)

## 2 規範意識を高め、夢と志を持ち、豊かな人間性を育成する学校

- (1) 教員が生徒一人ひとりの学習歴や生活背景を理解し、生徒との信頼関係に基づき毅然とした生活指導を行い、問題行動の未然防止や再履修生徒や転・退学生徒の減少に努める。
- 挨拶指導・遅刻防止指導・携帯電話指導・校内美化指導・通学時の自転車マナー指導を徹底するとともに、学校全体で5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進する。
- \*遅刻生徒数1,000以下を維持する。(H30:1730件、R1:738件、R2:682件)
- \*転学、退学生徒数の合計で前年度比20%減をめざす。(H30:45人、R1:32人、R2:19人)
- (2) 人権教育や様々な講演会・研修を推進し、社会人に相応しい人格と態度を養う。
- 発達段階に応じた人権教育や安全指導、薬物乱用防止、マナー向上等の多彩な講演会・研修を実施する。
- \*生徒向け学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を向上させ、肯定率80%以上を維持していく。(H30:78%、R1:76%、R2:84%)
- (3) 生徒の自己実現への支援に努める。
- ア 教育相談体制の充実を図り、生活指導部・学年・系の連携による生徒支援と教育相談活動を行う。
- \*学校教育自己診断の「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」の肯定率を75%以上に引き上げ、維持する。(H30:63%、R1:62%、R2:74%)
- イ 三か年を見通した進路指導計画に基づき、キャリア教育の充実に努め、生徒の豊かな勤労観・職業観の育成に取り組む。
- \*生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率85%以上を維持する。(H30:78%、R1:79%、R2:90%)
- ウ 生徒の夢や希望を実現するために、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・職業教育を行い進路指導の充実を図る。
- \*就職率100%を堅持する、公務員や大学進学決定率100%をめざす。離職率調査において、自己実現のための離職を除く3年以内の離職率30%未満を維持する。(H30:33%、R1:51%、R2:21.9%)
- (4) 読書活動を推進し、生徒に読書の大切さを指導する。
- ア 授業での図書館利用を推進する。
- イ 図書館の開館時間を確保し、図書貸出し数を増やす取組みを行う。

## 3 安全安心で魅力ある学校

- (1) 生徒会活動、部活動の活性化を推進する。
- ア 学校説明会、体験入学等の学校行事に生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく。
- イ 部活動の活性化に向けた取組みを積極的に推進する。 \*部活動の加入率50%以上を維持する。(H30:48%、R1:56%、R2:52%)
- (2) 公開授業を継続するとともに、PTA活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る。
- \*保護者向け学校教育自己診断「この学校の学校行事(体育祭・文化祭・授業参観等)に参加したことがある」を向上させ、令和5年度までには肯定率65%以上を達成する。(H30:63%、R1:62%、R2:57%)
- \*保護者向け学校教育自己診断「学校では、PTA活動は活発である」を向上させ令和5年度までには肯定率70%以上を達成する。(H30:63%、R1:64%、R2:57%)
- \*保護者向け学校教育自己診断「学校は、教育情報について提供の努力をしている」を向上させ令和5年度までには肯定率80%以上を達成する。(H30:73%、R1:68%、R2:68%)
- (3) 生徒に対する防災教育を推進し、防災意識を高めるとともに、防災マニュアルの更なる見直しに取り組み、学校の危機対応能力を高める。
- \*生徒向け学校教育自己診断「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか。知らされている」の肯定率を85%以上に引き上げ、維持する。(H30:74%、R1:74%、R2:84%)
- (4) 各種のイベントに積極的に生徒が関わり、小中学校への出前授業を実施し、学校の魅力発信に取り組む。
- 産業教育フェア、校外でのものづくりフェスタ等と連携したイベント等への生徒の積極的な参画を推進するとともに、教員による小中学校への出前授業を推進する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
	(第1回) 5月下旬(予定)
	(第2回) 10月下旬(予定)
	(第3回) 2月中旬(予定)

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R2年度値〕	自己評価
1 確かな学力と学びに向かう力を育成する学校	(1)学力の定着と学びに向かう姿勢の育成 ア キャリアガイダンスをPBL導入科目として取り組み、「自己肯定感の向上」の醸成をめざす。	(1) ア 「キャリアガイダンス」の内容を大幅に見直し、1年をかけて、「多様な専門性を持つ人との結びつき」や「自己肯定感を高める」取り組みを行う等、きめ細やかに学習することで生徒自身の自発性や関心、能動性を引き出し、答えにたどり着くまでのプロセスが大切であるというPBLにつながる考え方を学ばしていく。	(1) ア キャリアガイダンスでのアンケートによる『『答えにたどり着くまでのプロセスの大切さ』を理解した』の肯定的意見 80%をめざす。 〔新規〕	
	イ 実習・授業内容を改善し、生徒の興味関心を高める。	イ PBLの観点を授業に落とし込み、専門分野の実習等の改善に取り組む。	イ PBLの研究と教科横断型の授業に取り組む 新しい授業の取り組みの満足度70%以上を維持する。 〔新規〕	
	ウ 組織的な公開授業及び研究授業。	ウ 授業改善(ほんとうによくわかる授業)の取り組みとして、ICT機器の活用、教科横断型の授業の推進を図るため、授業見学や研究授業などを計画する。 実習の指導方法・評価の改善に組織的な取り組みを行い、生徒の満足度を向上させる。	ウ 研究授業回数12回〔7回〕 授業満足度75%以上を維持 〔76.7%〕	
	エ コミュニケーション力の育成を図る。	エ プレゼンテーション力育成のために、課題研究発表大会をはじめ授業や実習での発表機会を取り入れる。	エ 課題研究発表大会での肯定率80%以上を維持する。 〔83.6%〕	
	オ 1年生の基礎学力向上及び将来の職業へ繋がる専門を学習する大切さを醸成する取り組みを推進する。	オ 英数国での少人数・TTでの授業を行うとともに、ガイダンス科目では系・専科選択のための情報提供を十分に行い生徒のキャリアアンカーの醸成を図る。 また、基礎学力調査を活用した、生徒の学習意欲の向上にも取り組む。	オ 基礎学力調査による学習に向かう姿勢ができている生徒80%を維持する。〔83.4%〕	
	カ 無線LAN整備ICT授業の促進。	カ 教室の無線LAN整備を図り、ICT授業の促進を図る。	カ 学校教育自己診断(生徒)「ICT機器を活用した授業」平均60%以上〔新規〕	
	(2) ア 資格・検定等への積極的な挑戦と、その取得・合格をめざした指導を行う。	(2) ア 資格取得、各種検定試験の合格、各種コンテストへの応募や競技会等への参加を積極的に推進していく。	(2) ア 資格・検定の一人当たりの受験率110%以上をめざす。 〔105%〕 コンテスト等参加者150人をめざす。〔97人〕 ジュニアマイスター顕彰受賞者15人以上を維持する。 〔22人〕	
	イ 外部連携による体験活動の推進	イ 企業等との連携授業や校外での実習・見学・体験活動等を実施する。	イ 実施件数100件以上を維持する。〔100件〕	

<p>2 規範意識を高め、夢と志を持ち、豊かな人間性を育成する学校</p>	<p>(1)規範意識を醸成する生活指導の取り組み ア 挨拶運動・遅刻防止指導を推進  イ 5Sの推進、校内美化運動の推進</p> <p>(2)発達段階に応じた人権教育の充実</p> <p>(3)生活指導部と連携した教育相談体制の充実</p> <p>(4)計画的な進路指導の推進</p> <p>(5)読書活動の推進</p>	<p>(1) ア 挨拶・遅刻指導・スマホ等指導、通学時の自転車マナー指導を徹底し、生徒の規範意識を醸成する  イ 全ての教育活動で、ものづくりの基本となる5Sを徹底し、学校環境の改善に取り組む</p> <p>(2)学年別人権教育の充実を図る ア、学年に応じた人権HRを企画し、生徒に「人権について考える」を意識する授業を実施する。 イ、年間を通して人権を意識するため、定期的にも人権通信(仮称)を作成し、掲示・配付する。</p> <p>(3)教育相談活動を充実させ、安全安心な学校環境をつくる。SC、SSWとの連携による生活指導体制を構築し、個々の生徒の実態に応じた指導を実践する</p> <p>(4)就職率100%を堅持するとともに、公務員や大学進学を希望の生徒が100%合格できるよう指導する 離職率調査を実施し、進路指導に活かす</p> <p>(5)図書館の利用を促し、読書の大切さを指導する ア 授業での図書館利用を推進する  イ 図書館の開館時間を確保し、図書の貸し出し数を増やす取り組みを行う  ウ 生徒の居場所づくりとしての役割を意識し運営する。</p>	<p>(1) ア遅刻数1000件以下を維持する。〔682件〕 転・退学者15件以下をめざす。〔19件〕 イ定期的な整理・清掃活動の実施。24回〔15回〕 学校環境の満足度70%以上を維持する。〔70.4%〕</p> <p>(2)生徒人権教育の実施回数3回〔3回〕 取り組みに対する肯定率80%以上を維持する。〔84%〕</p> <p>(3)学校教育自己診断(生徒)「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」75%以上をめざす。〔74%〕</p> <p>(4)離職率調査を実施し3年後の(自己実現の離職を除く)離職率30%未満を維持する〔21.5%〕 進路情報を広く生徒に周知する</p> <p>(5) ア 授業での利用数50回以上を維持する。〔59回〕 イ 生徒向けの本の貸出冊数を10ポイント増加させる。〔19冊〕 ウ 生徒の本貸出利用人数を10ポイント増加させる。〔441人〕</p>	
<p>3 安全安心で魅力ある学校</p>	<p>(1)生徒活動の活性化 ア 学校の広報活動に生徒が主体的に関わるようにする イ 部活動が活性化するように学校全体で取り組む</p> <p>(2)開かれた学校づくり 授業公開を行うなど、PTA活動や学校運営協議会等の充実を推進</p> <p>(3)防災等訓練等を通して生徒の意識の向上を図る</p> <p>(4)外部イベントへの積極的な参加と情報発信を行う</p>	<p>(1) ア 学校説明会、体験入学等の学校行事に生徒が主体的かつ積極的に関わるように指導していく  イ 部活動の活性化に向けた取り組みを積極的に推進するまた、部活顧問の長時間勤務の解消のために、負担均衡を図り長時間勤務者の減少を図る</p> <p>(2) ア 年2回の公開授業を継続するとともに、PTA活動や学校運営協議会等の一層の充実を図る  イ 保護者用Googleアカウントを作成し、Classroomを活用したオンラインによる連絡を推進する(新)</p> <p>(3)地震、津波などの災害を想定した防災訓練を実施し、生徒の防災に対する意識を高める。教職員の対応マニュアルを見直し、学校の危機対応力を高める</p> <p>(4)外部イベントに生徒が関わるように指導するとともに、出前授業等により学校の魅力を発信する ア 西淀川ものづくりまつり、大正ものづくりフェスタ等と連携したイベント等へ参加を推進する イ 小・中学校への出前授業等に取り組み、学校の魅力を発信する</p>	<p>(1) ア 体験入学や学校説明会に関わる生徒数80人以上〔29人〕 イ 部活動加入率50%以上を維持する。〔52.4%〕全教員が部活動顧問に就く体制を整える。</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断(保護者)「学校の学校行事に参加したことがある」を10ポイント増加〔57%〕 学校教育自己診断(保護者)「学校では、PTA活動は活発である」を10ポイント増加〔57%〕 イ Googleアカウント登録率70%以上、Classroom登録率70%以上〔新規〕</p> <p>(3)学校教育自己診断(生徒)「地震や火災等への行動について理解している」80%以上を維持する。〔84%〕</p> <p>(4) ア 各種イベント等への生徒参加を奨励する。〔2回〕 イ 教員による小中学校への出前授業等の企画を行う。〔0回〕</p>	